

2015年4月27日掲載

妊娠中のむし歯

医師に告げ適切処置を

「妊娠・出産でおなかの赤ちゃんにカルシウムを奪われたから、歯がボロボロになった」と来院される方がいます。歯はカルシウムでできていますが、骨の様に血中カルシウム濃度を保つために血液中にカルシウムが溶け出したり、取り込まれたりすることはありません。一度歯になったカルシウムは一生そのままです。ですから、妊娠により歯がボロボロになることはありません。

妊娠中は、つわりのため歯ブラシを口に入れられなくなったり、歯磨き剤の匂いを受け付けなくなったりすることで、十分な歯磨きができなる場合があります。また、体調の影響で口のケアができないまま眠ってしまうことも少なくないため、口の中は不衛生になり、むし歯や歯肉炎になりやすくなります。

さらに、歯周病を起こす菌の中には、女性ホルモンを好む細菌がいて、女性ホルモン値が高くなる妊娠中には歯肉の炎症を起こしやすくなります。

また、気になる症状があっても、「妊娠中は薬を使ってはいけないから、歯科医院にはいかない方がいい」と思っているうちに悪化してしまった、ということもあるかもしれません。

出産後は育児で手が離せなくなり、歯科受診が遠のく傾向にあります。妊娠が分かった時点で、歯科医師に妊娠中であることを告げ、適切な処置を受けるようにしましょう。また、むし歯はなくても、定期的な歯科検診を心掛け、必要があれば歯石除去などのケアを受け、正しいブラッシング方法なども教えてもらおうとよいでしょう。